



昭和30年代、山形駅前のすずらん通りで開かれた七夕祭り。各商店が七夕飾りの豪華さを競い合った。写真右上に「小林」の看板。小林代表取締役の祖母は、この通りのビル一角で衣料店を開いていた(林谷徳治氏撮影「山形市の120年」いき出版発行より)

「他県の人から山形に来て楽しい、魅力的だな」と思える駅前にしていきなりたいですね。それには自分たちが面白いお店を作っていくと同時に、街全体で先行事例を学ぶことが大切です。実証実験が8月に終了しました。が、歩道の一部を活用したテラス事業の展開も必要です。それとブレイヤーの存在です。山形の特産、産業を活かした新商品開発やイベント開催といった山形に特化したプロジェクトを支援するクラウドファンディング事業を立ち上げました。魅力あふれる山形を創っていくブレイヤーが増えることで、わたしたちの街に明るい未来が開けるのではないのでしょうか。」

「山形っておもしろいところがたくさんあるよね」を創りたいと話しています。

は50を超す酒蔵があります。それだけの酒には特徴があり、酒粕にも個性があります。老舗酒類販売業の武田庄二商店さんの協力を得て、山形の銘酒の酒粕を使って銀鱈・銀鱈・サーモンの3種類の魚の粕漬を販売しました。製造免許を取得し設備を導入、試行錯誤しながら完成しました。商品名の『山ノ縁』は豊かな食材と名だたる酒処を食で結ぶという思いを込めました。」

「順調に事業を展開しているところに新型コロナウイルスです。影響は、」

「感染症防止対策は徹底していますが、やはり売り上げは対前年比で4割ほど減少しています。しかし、こ

の機会に新たなことに挑戦して行く」と社員と共に取り組んでいます。

当社は『Go Further (常に先へ)』を合言葉に『常に先を見据え、社員の将来を見据え、企業の将来を見据え、山形の将来を見据える』ことを

経営理念に掲げています。

「そこで新たに取り組んだのが魚の粕漬『山ノ縁』の商品化です。特徴を何に求めるか。他商品との差別化をどう図るか。検討に検討を重ね、酒粕に焦点を当てました。山形県に

キラリ山形

Go Further(常に先へ)

ジョウセン(株)

小林 亮太 代表取締役

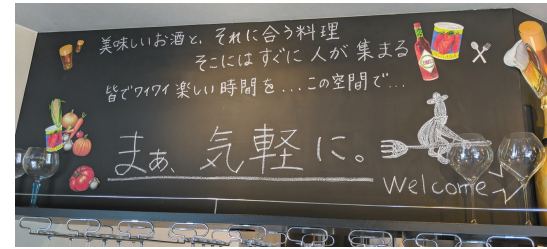
「創業して5年、すずらん通りで活気が戻ったように見えます。」

「一人の写真がある。昭和30年代、七夕まつりにぎわう香澄町すずらん街の風景。こんなにぎわいを飲食の力で再現したいと創業して5年。「まあ、気軽に立ち寄ってください」との思いを込めて名付けた洋食バル「Marki garni(マーキガルニ)」からは酒と会話を楽しむ姿がガラス越しに見える。楽しむメーカー社員から転身した小林亮太ジョウセン(株)代表取締役を訪ねた。

「人が集まることによって恋人になつたり、結婚したり、ビジネスが生まれたりする『場』をつくりたいと思いついた。創業しましたが、まちのぎわいに貢献できたのではないかと思っています。元々この地で祖母が50年間『小林衣料店』を営んでいました。飲食業はまったくの素人で、最初から大きなスペースで始めるのはハードルが高いので、祖母が所有していたビルを3店舗に分割して、通りに面したワン・スペースで開店しました。」

「どんな店にしようか。母と2人で東京都内を歩き回りました。『こ

飲食の力で街に賑わいを



最初の店・洋食バル「Marki garni(マーキガルニ)」



「常に先へ」をモットーに飲食の力でまち興しと事業を展開する小林亮太代表取締役(左)と武田晋一郎執行役員経営管理部長



旬な魚料理を提供する「魚きがるに」



新商品・酒粕にこだわった魚の粕漬

ジョウセン(株)

設立 2017年2月1日

代表取締役 小林 亮太

事業内容 飲食事業

クラウドファンディング事業

所在地 〒990-0039 山形市香澄町2-1-2

☎023-666-6939(代表)